

子どもの社会的自立を支える特別活動

ー神奈川中学校でのキャリア教育を通して考えるー

鈴木 英夫

序

学校教育が子どもを大人にして社会に参入させるために行われているとしたら、育てなければいけないのは、OECDの言うコンピテンシーだけだろうか⁽¹⁾。平成29年に新しい学習指導要領が示されて、教室で身につける学力は、進学のためのテストで必要と考えられてきた教室的な知識としての学力から、知識を集団で活用できる学力へとブラッシュアップされた。それは、文明化した国際社会で必要な力、すなわちコンピテンシーにも似ている。新しい学習指導要領では、それらの力を主体的で対話的で深い学びを通して、身につける力と捉えて整理していると考えられる。

しかし、人が人であるということは、有能さと同じであろうか。ダックワースの言うようなやり抜く力は新しい学力として定義可能なのだろうか⁽²⁾。あるいは、人としての優しさや、敢えて言えば弱さは、同じように身につけるべき力なのだろうか。人が芸術作品に感動したり、特定のスポーツが好きだったり、食べ物の嗜好がはっきりしていたり。あるいは、考えることが好きで慎重派だったり、行動的だったり、喜怒哀楽がはっきりしていたり。人が人との違いを理解し合い、当てにしながら社会生活を営むためには、人間としての有り様を豊かに体験して、人間性を豊かにする必要がある。あるいは、人と人との豊かな関わりを通して、たくさんの体験の中から、自分を豊かにし、様々な人と

もに生きていく経験が必要である。学習活動がますます生きる力をブラッシュアップし、知識を溜め込む学力から、知識を社会で活用する学力へとコンピテンシー育成の質を向上させようとしている。ある面、学力の領域が拡大している。だから、ますます、人間としての様々な体験が重要となる。社会で自立する力を育てるために、教育課程を考えるときに、教科の学習以上に大きな影響を与えてきたのが特別活動である。

しかし、学校はそれだけの意識を持って特別活動に取り組んできたのだろうか。学習とは別の領域で、子どもたちが自分で考えて集団活動すれば特別活動になると、特別活動をカリキュラムとしてではなく、カリキュラムとは別の活動領域だと考えてこなかったのだろうか。

平成29年新しい学習指導要領が告示された。告示直前の中央教育審議会特別活動ワーキンググループの検討の中で、キャリア教育の中核となる時間の明示が必要だという意見が出たという⁽³⁾。教育活動全体の取り組みをつなぐ中核的な時間として、特別活動を位置付けることになった。

そもそも、学校教育の目的は、子どもを大人にすることにある。子どもが大人にならなければ、この社会を維持し、発展させていくことはできない。子どもを大人にするとは、読み書き算などの知的スキルの育成やその国の歴史や文化を継承するといった知的な力の向上に加えて、大人社会で生きていく資質を育てることが

必要だ。社会的自立を支えるために、子ども一人ひとりの能力や環境に応じて、人として育てることが、学校教育の役割であると思う。

現在多くの学校では、特別活動は、教科指導とは別の論理で運営されている場合が多いのではないか。勉強を頑張れば、文化祭など学校行事は生徒たちの自由なアイデアで運営できますよ、という位置付けである。学校教育が、全体として子どもを大人にする教育だとするならば、勉強の合間にお楽しみとしての学校行事や生徒会があるのではなく、教科学習と特別活動を合わせて、トータルに大人としての知識や対人的あり方などを指導する場でなくてはならないのではないか。

今回、この小文では、特別活動の課題、キャリア教育の課題、そして具体例として神奈川中学校の職業体験の状況を整理して、キャリア教育の視点で特別活動をカリキュラムマネジメントできるかについて検討したい。

1 特別活動の課題

特別活動は、1951年の学習指導要領に「教科の学習だけでは十分達せられない教育目標がこれらの活動によって満足に達成されるのである。」と記載されているように、今日の特別活動の内容が位置付けられた。特別活動の発生については、磯島が詳しく変遷を整理している⁽⁴⁾。1947年の学習指導要領では、自由研究が位置付けられ、週あたり1時間から4時間の時間が配当された。自由研究の内容は、磯島によれば、児童や青年の自発的な活動のなされる時間として、個性の伸長に資するものとされた⁽⁵⁾。内容的には、教科の発展としての自由な学習、クラブ組織による同好会的な活動、当番や学級委員などの自治活動に分けることが可能だ。1951年の学習指導要領改定によって、小学校では自由研究が「教科以外の活動」に変わり、児童会、児童集会、学級会、委員会、クラブ活動等がその内容とされた。中学校および高等学校では「特

別教育活動」として、ホームルーム、生徒会、クラブ活動、生徒集会の4領域に整備されたが、単なる課外活動ではなく、教科を中心として組織された学習活動ではないいっさいの正規の学校活動として教育課程に位置付けられた。1968年の改定では、高等学校を除いて、「特別活動」の名称で統一され、内容も、児童生徒活動、学級指導、学校行事の3領域に整理された。1978年の高等学校学習指導要領に改定により、高等学校も「特別活動」の名称で統一され、内容もほぼ同様になった。

特別教育活動について、水原は、「教科の一般目標の完全な実現は、教科の学習だけでは足りないのであってそれ以外に重要な活動がいくつもある。教科の活動ではないが、一般目標の到達に寄与するこれらの活動を指して特別教育活動と呼ぶのである。」との1951年の学習指導要領を引用しながら、ホームルーム、生徒会、生徒集会などで、問題解決学習の実際的な訓練の場として、また、民主主義の市民形成に取っても欠かすことのできない経験として位置付けられていた、と述べている。民主主義の原理と生活の方法を学ぶ活動として位置付けられ、基本的には生徒たち自身の手で計画されることが必要な活動であると、整理している⁽⁶⁾。

現在の文部科学省の考え方は、国立教育政策研究所教育課程センターが作成したリーフレット『特別活動』から、理解できる。その中学校編では、「特別活動の特質は、学習指導要領における位置付けと潜在的カリキュラムとの密接な関わりが相まって、児童生徒の学校生活を支え、心に残る学級・学校の文化の創造に寄与すること」にあると指摘している。役割としては、人格的、社会的な自立を培うこと、自主的、実践的な態度を育むこと、魅力ある学級、学校づくりを実現することなどを挙げている。また、我が国の学校教育を特徴付ける教育活動として「特別活動はその成り立ちや内容から見ても日本的な特色を持った教育活動として誕生し、我が国の全人的な教育を特徴付ける学校文化」で

あると述べている。集団活動を通して個を鍛える、中学生期の教育課題に向き合う、人間関係や豊かな人間性を育てる、生徒の問題解決能力と教員の指導力を高めるなどして、学校教育としての役割を果たしている。生徒たちには、集団の中で活動し、学校文化を創りながら個を鍛え、自分自身や他者の存在や意味に気づき、社会的自立に向けて育っていく場が必要である。集団が学習内容であり方法であり、なすことによって学ぶ活動であると言っている⁽⁷⁾。

人が人として社会でその存在を受容されて生きて行くためには、自己を知り、他者を受け入れ、集団をより良い方向へ進める意欲や資質が必要である。そういう資質を集団の体験の中で育てる場こそが、学級、生徒会、学校行事などを指導の場とする特別活動の領域である。

現行の学習指導要領中学校編では、特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」となっている。2016年中教審の審議のまとめについては磯島が整理している通り、現行指導要領の成果として、特別活動は集団での活動を通して社会で生きてゆく力を育む活動として機能してきたこと、特別活動の生徒指導ガイダンスの機能が望ましい集団活動に寄与してきたこと、特別活動の集団活動は学校文化を作り日本の教育課程の特徴として海外から高評価を得ていることの3点を挙げている。充実のためには、教育課程全体における特別活動の役割機能を明らかにする必要、各活動の内容は指導のプロセスについて構造的な整理が不十分、自治能力やキャリア教育の視点を明確にすべきことの3点が課題である⁽⁸⁾。実際学校現場で、学級担任をしていた時、生徒会担当として生徒と議論しながら生徒会活動を作り上げていた時、学校行事を担当して年間に行事を配当し進行を運営していた時には気

づかなかった重大なことがある。それは、特別活動が学校の教科教育を含めた教育課程に位置付けられ、生徒の全人的教育に教育課程全体の一部として寄与しなければならないということである。学級担任の目は、様々な課題の生徒を抱えながらなんとか学級を平静に保とうとすることに注がれる。生徒会担当であれば、生徒会本部役員との協議を通して、自主的自立的な生徒会運営や生徒会行事の成功を目指して、生徒と目的を共有することに傾く。学校行事担当であれば、修学旅行や文化祭、体育祭などのメインとなる行事を、定期テストの合間を縫ってどのように配置し、どのように準備期間や冷却期間を設ければ生徒も教員もスムーズに暮らし働くことができるかに関心が集中する。担当する部署ごとに視野が異なり、学校の教育課程全体として特別活動の目的や内容をどう考えるかという視野を持ってないケースが多いのではないかと。

地区ごとに学校を超えた研究組織として、各教科研究会の他に、道徳や特別活動などの研究部会が存在している。中学校や高等学校の特別活動研究会でしばしば研究テーマに挙げられるのが、生徒のリーダー育成である。リーダー育成については、北岡の指摘が興味深い。北岡は、特別活動におけるリーダー育成について次のような指摘をしている。特別活動は、集団活動に傾き過ぎていたため、様々なリーダーがともかく置かれてはいるがその果たすべき役割と意義が十分に認識されないまま、教師の代理的役割を務め、形骸化しているのが現状ではないか⁽⁹⁾。さらに、我が国の特別活動では、諸活動の規則や手順を繰り返して教えて、生徒だけで活動を半ば自動的に進めていけるようになることを目指してきた。したがって、選ばれたリーダーに求められるのは創造性ではなく指示された仕事を効率的に間違いなくこなすことになっていった。これが、あとは選良に任せるという日本の大人社会の政治的無関心の萌芽なっていないかとの指摘である⁽¹⁰⁾。リーダー育成そのもの

が目的化すると、教師の個性や、子どもたちの自由をどう捉えているかにもよるが、教師の指示通り手順を踏んで集団を動かす力を育てようとするか、生徒の自由な領域として生徒の希望や主張を叶えることを重要視するか、経験上どちらかの傾向に大別される。中学校では、教師の有能な部下となって活動させる傾向が強く、高等学校では学校における生徒の自由を尊重し、生徒が先輩から受け継いだものを自由に展開させようとする傾向が見られる。しかし、特別活動そのものの目的に立ち戻れば、集団の中で個を鍛えることであり、社会的自立の力を育てることであつたはずである。リーダー育成が目的化すると、その狭い集団が社会になり、その狭い人間関係の中での関係づくりや役割を果たすことが多くなり、いわゆる「内輪受け」的なインナーグループの中での関係づくりをさせるだけになってしまう。特に最近の子どもたちは、所属した集団に自己を合わせることに腐心しがちである。インナーグループ内での自分の居場所や役割観の確立からは社会的自立への道は遠い。特別活動の本来の目的に沿った、リーダー育成や行事の実現などを進めるためには、学校全体の教育目的を教科教育、道徳教育、総合的な学習の時間とともに、特別活動がその実現を担っているという自覚と、カリキュラムマネジメントの発想が必要なのではないだろうか。

2 キャリア教育について

学校教育が自立のための営みであるとするならば、学校教育全体がキャリア教育である。なぜならキャリア教育とは、具体的な社会的自立へこころざしや手がかりを、学校在学中に育てようとする教育だからである。このことを、下村は、キャリア教育とは「生涯にわたる自分のキャリアを自分で考えるようにするための教育」であると、述べている⁽¹¹⁾。自分が他者との関わりの中で今どう生きるかが特別活動の中

で体験すべきものであるなら、その延長線上に社会に参画する仕方をどうするかを考えさせる教育がキャリア教育の役割であろう。その意味では、学校の時間割のどの駒をキャリア教育に当てるかということ以上に、特別活動とキャリア教育は連続性がある。

キャリア教育は歴史的にはアメリカで発生し、日本でも労働環境の変化の中で重要視されるようになった。アメリカでは、職業教育との関係が強く、アメリカにおけるキャリアエデュケーションの目標は、「すべての児童生徒学生に対して知的教科と職業的教科を総合的に指導して高校卒業後に最もふさわしい進路を選択し、社会的職業的自己実現ができるように、知識、技術、態度などを習得し、人間として望ましい生き方を指導しようとする」ものである⁽¹²⁾。吉田と篠によれば、アメリカは20世紀初頭から職業教育が盛んであった。1930年代アメリカでは世界恐慌で、青年の失業者が増大し、経済恐慌が職業選択の可能性を奪ってからは、強調点が全人的指導の方向へ転換していったという。そして、従来の職業指導とともに、生徒の能力、適正、興味、志望などの指導を出発点として、生徒の人格の健全な成長発達や生活全般にわたっての適応を目指したガイダンス運動が展開された。1971年以降、アメリカ連邦教育局の主導で行われたキャリアエデュケーションは教育改革の重点施策の一つで、全米の幼稚園から大学までキャリア発達の視点から実践的教育活動を展開した。小学生段階でのキャリア教育は、のちのより本格的なキャリア教育のベースになるような体験や経験を具体的な人物を通して子供達に伝える活動。中学生では、職場見学や職業体験など具体的に大人との関わりの中から、抽象的な職業とか将来について自分なりの理解を作り上げる活動。高校生になると、実際の職業場面に即した教育。大学生は人生初めての就職をどうするか考えさせる。この時期、パーソンズは職業指導に関する世界最初の体系的な書物を著し、その著書の中で、ガイダンス

を通して、1 自分自身をはっきり知ること、2 職業につくために必要な能力について理解すること、3 上記二つの要因の間の関係を正しく推論することを育てるべきであるとした。また、パーソナリティは青少年の懸命な職業選択によって職業生活の確立を図り、漸進的に社会改良が進むと考えた。また、スーパーは、職業指導を通して、個人が自分自身と働く世界における自分の役割について、統合されかつ妥当な自己の映像を發展させ受容すること、が大切だと考えた⁽¹³⁾。こうして、アメリカでは職業教育から、生き方や働き方を考えるキャリア教育が發展していった。

日本では、2004年がキャリア教育元年と言われている。社会的背景としては、フリーターの増加、就職難、早期離職、転職者の増大、学校から職業への移行の課題、不登校などの学校不適応、従来型の雇用形態の崩壊などが挙げられる。これらの状況で学校教育の課題としてキャリア教育の考え方や、職業体験などの進め方が整理された。2004年の文部科学省の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」が公表され、キャリア教育とは「児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義された。吉田は、キャリア教育の特徴を1 生き方の一環として職業を学ぶ 2 主体的に進路を選択する能力態度 3 体験学習 ガイダンス カウンセリング 4 家庭地域との連携 5 小学校から発達段階に合わせて実施する5点に整理している。「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」をキャリア発達というが、キャリアは段階を追って発達する⁽¹⁴⁾。その段階をふまえて、社会的・職業的自立に必要な基礎となる能力の育成を進める。特に中学校では、現実的探索と暫定的選択の時期であり、発達課題としては、肯定的自己理解と自己有用感の獲得、興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成、進路計画の

立案、生き方や進路に関する現実的選択が発達課題である⁽¹⁵⁾。2004年の段階では、キャリア教育で育てる、いわゆる4領域8能力が示されていた⁽¹⁶⁾。2011年になると、中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について」において、4領域8能力は「基礎的・汎用的能力」として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力に構成し直された。4領域8能力の考え方と比較すると、忍耐力やストレスマネジメントなど自己管理能力が新たに独立的に考えられて、整理された。また、2004年のキャリア教育元年以来、職業体験学習なども盛んになり、全国の中学校で、計画、実施、ふりかえりを含んで5日間の職業体験が学校に定着した。キャリア教育の実施状況については、平成25年(2006年)の「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第1次報告書(概要版)」で確認する限り、調査対象校500校の約9割で職業体験学習を実施していることがわかる⁽¹⁷⁾。

職業体験学習については、下村は、「働く大人を間近に見て、直に接し話をすることで、児童生徒の中にはっきりとした手応えが残り、変化が生じます。それは先生方が与えることのできる変化とは性質の違うものです。こうしたことは子供の周りにいる大人の力を借りることで初めて可能になることです。」と述べている⁽¹⁸⁾。中学生を大人に育てるには、中学生同士と、教員と親だけでは不足である。核家族化、少子化が進んで、親が自分の子どもの能力の伸長だけに興味を持つことが増えている。また部活動、塾通いなど、子ども自身の能力を向上させる子ども主体の時間が占める割合が多くなっている。子どもが、大手を振って子どもでいられる場や時間が増え、むきだしの大人と接する機会が減っている。子どもが社会性を獲得するには、子ども中心の場や時間ではなく、大人中心の場に参入しなければ、大人のルールを直に感じ取ることにはできない。私は、だから職業体験は重

要だと考えている。平成16年(2004)の東京都の調査では、3日間の職場体験を通じて77%の生徒が働くことの意義や充実感が深まったと感じていることがわかる⁽¹⁹⁾。この職業体験の良いところは、地域社会の力を学校に活用する、地域社会とともに学校づくりをすすめて、地域の子どもをともに育てる意識と実態の形成にもある。下村は、「キャリア教育には学校の教員以外の大人が関わる可能性」や、「キャリア教育による地域のセーフティーネット」などという表現をしている。安心安全な学校づくりには、安心安全な地域づくりが欠かせない。地域社会が自律的に、良い地域づくりを進めよう、学校でより良い教育をしてもらおうと、はたらきかけることが大切である。

3 神奈川中学校の職業体験学習

私は、横浜市立神奈川中学校の校長をしていた時に、神奈川中学校職業体験学習の冊子に次のような文章を載せて、生徒たちへ職業体験の意義を語りかけた。『人間が生きのび、人間として成長していくためには、社会的生活を営み互いに助け助けられつつ生きていくことが不可欠なことである。(中略)その一つがヒトの互恵的(ごけいてき)利他(りた)行動(こうどう)である。互恵的利他行動とは、血縁関係がない者の間でも、(中略)自分の利益を犠牲にしても他の誰かの利益になることを進んでするという人間の行動のことである。』これは門脇厚司著『子どもの社会力』の一説です⁽²⁰⁾。門脇氏は、人間が社会的動物として生きていくためには、子どものころから社会と接するトレーニングが必要だと言っています。人は基本的に他人のために努力することを通して社会的な集団として生きています。働くということは、自分の才能を発揮したり、自分の喜びを見出したり、自分や家族が生きていくための収入を得たりする側面もありますが、基本的に他人ために努力することなのです。やりたい仕事や好きな

仕事を考える前に、他人のために黙々と働き、世の中に認めてもらうことも大切です。自分が仕事を選ぶのではなく、仕事や社会に自分を選んでもらうのです。世の中で働き始めるというのはそういうことです。」子どもたちは、自分中心の世界でものを考えている。子どもだから当たり前であると思う。しかし、中学校の任務は、子どもを社会に送り出すことにある。その地域に住んでいれば、誰でもその地域の小学校に通学し、誰でもその学区の中学校を卒業することができる。これは、義務教育が共通とか平等などの価値を大切にしているからである。しかし、高等学校は、その高校への進学を希望しても、入学者の選抜があり、希望が叶うとは限らない。自分の力や特性を理解できないと、ただただ受験競争に投げ入れられるだけになる。己の適性や、能力や特性を正しく理解し、そのことに納得と自信を持ってなければ、他者との貧しい比較だけで進路を考えなければならなくなる。そうなれば、自分を認められない者も出現すれば、他者を見下したり、受け入れられない者も出現し、進路選択を通して傷つけあう関係しか築けなくなる。自分の特性を受容し、他者に自分の特性を認めてもらうという考え方には社会に参画することはできない。自分中心の座標軸から、社会の座標軸を想定し、自分をそこに当てはめる力も必要になる。それには、トレーニングが必要である。

学級活動や、生徒会活動、学校行事などは学校の中で、同質性の高い社会集団のなかでのトレーニングであり、発達段階に即したトレーニングを教員の指導監督のもと計画的にかつ調整を効かせながら実施することができる。これが、特別活動が教育課程に組み込まれている理由だと思う。しかし、職業体験の相手は、学校の事情に主軸があるのでなく、会社や顧客や地域に主軸を置いている大人たちである。このことを下村は「実際に職場で働くことはもちろん職場ではきちんと挨拶する。職場には時間通りに到着するというを知るのも大事なキャリア教

育の目的の一つです。大人に囲まれて右往左往することも、その結果少々叱られることも、すべて子どもの中に経験として蓄えられています。」と述べている⁽²¹⁾。子どもたちを自立に導くため、親でもなく教員でもない大人が関わる職業体験の果たす役割は大きい。

さて、神奈川中学校の職業体験は、キャリア教育元年と言われる2004年に先立って、1988年に始められている。その発生と発展について確認しておきたい。

(1) 1987年の事業準備

神奈川中学校区では学校家庭地域連携事業の健全育成事業として、竹細工教室とちぎり絵教室を実施していた。学校家庭地域連携事業とは、学校と家庭と地域が総会と地区懇談会を実施して、学校だけでなく地域ぐるみで、主に中学生の健全育成を進めようという組織で、1985年ごろに横浜市内の中学校学区ごとに設置された組織である。神奈川中学校でも、設置の趣旨にしたがって竹細工教室のような事業が始まっていた。竹細工教室は神奈川中学の生徒と学区の3小学校の生徒計150人を対象に竹とんぼなどの作り方を教える教室であり、ちぎり絵教室は神奈川中PTA成人委員会のちぎり絵講習会のメンバーの方たちを講師として、同じく小中学生を対象に実施された。

この時期、横浜市内の中学校は神奈川中学校に限らず、深刻な荒れに見舞われていた。中学生の生徒指導上の課題は深刻であり、解決策を学校も地域も模索していた。竹細工教室など実施の3年目を迎えた1987年に、この二つの教室では子どもの健全育成には不十分であり新たな事業が必要だ、との考えから次のような改善の方針が確認されたという。改善策の検討にあたっては、神奈川中学校の両角英之教諭、神奈川中学校PTAの茂木茂さん、地域の自治会関係者堀江芳雄さん、山根誠さんなどが推進にあたった。子供たちの健全育成のために新たな事業を起こすにあたって、1こどもたちが自分を見つめ直す内容にしたい、2より多くの地域の

かた達に協力して頂く事業にしたい、3企画段階から学校だけでなく地域も運営の主体になる事業にしたい、4生徒が主体的に取り組める事業にしたい、との方針が決まったという⁽²²⁾。地域と学校と一緒に中学生の健全育成を進めるため、地域の教育力を学校教育活動へより有効に生かすことが必要だとの共通認識に立ったのである。山根誠さんに改めてインタビューを試みてわかったことがある。実は、このころ神奈川中学校では、荒れる学校に直面し、PTAが全校清掃活動を生徒とともに取り組み、例えば教室の蛍光灯の上に積もったほこりまで徹底的に掃除するなど、学校の課題に具体的に取り組もうとしていた。このようなPTA活動の基盤があって、地域が主体となる職業体験学習につながっていく。山根さんは、職業体験学習を始めた動機を、「子どもたちが地域のまなざしの中で生きていることを感じ取って、地域の子として育てて欲しい」と語ってくれた。こうして、地域の人たちが先生役を務める職業体験学習が生まれていった⁽²³⁾。

そこでは、地域の教育力を学校教育に活用する意義として、1生徒の自発性や自主性を育てるのに役立つ、2社会の一員としての自覚が深まる、3将来への展望を開く機会とすることができるとの内容が確認された。こうして、竹細工教室は、大人の働く姿を見せて中学生に将来への希望を育てようと、職業体験という事業に発展することになった。神奈川中学校の職業体験事業は、企画の段階から地域と学校が手を携えて、中学生の健全育成をすすめる、社会的自立に導いていこうとする方向性を持っていた。この事業は学校家庭地域連携事業の一環として考えられていたため、連携事業実行委員会の各部門から推薦された、茂木茂さん、堀江芳雄さん、山根誠さんなど地域の人達6名が、「青年ボランティアの会」を組織し、学校のパートナーとして企画にあたることとなった。

(2) 1988年第1回目の職業体験学習

1987年から準備が進められた神奈川中学校

職業体験学習は次のような実施要綱で第1回目
が実施された。

第一回目(昭和63年)の実施要項

- 1 趣旨 ○学校・家庭・地域連携事業として地域の方たちとのふれあいの場とする。
○働くことの厳しさ、喜びを体験し、仕事に対する正しい認識を培う。
- 2 内容 導入としての全体講話とグループ別の職業体験
- 3 ねらい ○仕事の厳しさ、喜び、工夫や生きがい、ひたむきさを実感してもらう。
○地域を支える人々の生活や心情を理解し、将来の社会を担う一員としての自覚を育てる。
○地域に於ける大人と子どもの関係を見直し、ふれあいを通じて地域の教育力を高める
- 4 講演 講演 テーマ「家を建てる」(11月7日実施)
- 5 グループ別講話 (以下の分科会で11月27日に実施)

(1) 電気のしくみと生活(電気設備)	(2) さかなと健康(鮮魚販売)
(3) いんさつのできるまで(印刷業)	(4) 自動車修理のコツ(板金塗装)
(5) 君ならどんな家を建てる(建築設計)	(6) 女性消防士のいきがい(消防士)
(7) 園児とともに(幼稚園教諭)	(8) たたみのある生活(製畳業)
(9) デザイナーという仕事(インテリアデザイナー)	(10) いのちをみつめて(看護婦)

1987年に実施に成功した職業体験学習は、2017年の今日でも営々と歴史をつないで実績を重ねている。近隣の小学生も、神奈川中学校の職業体験学習に期待して中学校に進学してくるようになってきている。地域社会の力で職業体験学習が行われていることが、学校や地域の誇りとなっているのである。

神奈川中学校でこのように長い年月にわたってこの事業が実施できるのは、地域の商店が活力をもって営業を続けていることや、地域社会が自治会活動や地域の祭りなど組織だった活動ができて、多くの住民の参加を得ているという底力があるからである。この日の様子について、当時神奈川中学校PTA会長で青年ボランティアの会の茂木茂さんは、「製造業からサービス業まで、その道の専門家が集まったの職業体験学習、一時、神奈川中学校が街に変貌したようです、寿司屋さんや花屋さん、教室は店に、廊下は歩行者天国に、のれんや看板こそありませんが街の営みそのものです。教室から時折聞こえる生徒の楽しそうな声、職業を通していろいろなことを学び体験する素晴らしい行事だと思いました」と語っている⁽²⁴⁾。青年ボランタ

リーの会の一員として、学校の課題に向き合い、主体となって企画した人だからこそ言える言葉である。

巻末の資料1には、学校に講師を招いて実施する職業体験学習について、講師となった人たちの業種を、日本標準産業分類を基本に整理して一覧表にした。1988年から始まって、2000年までは講師数が20人ほど来ている。しかし、文部科学省のキャリア教育元年に近い2002年からは、2年生で実施する校外型の職業体験に取り組み始めたため、校内に講師を招く校内型の職業体験は1年生のみが対象となって、講座数が17前後に減っている。業種別にみると初期には近隣の工務店など製造業関係が多かったが、近年になると、区役所などの公的サービスを始め個人業ではなく組織が対応しているものが増えてくるのがわかるが、製造、情報産業、小売店、美容師などの生活関連サービス、医療福祉、消防署などの公務などの業種が約30年間の実施時期を通じてバランスよく継続されている。講師の方の中には、先代から講師を引きついで次の世代の経営者もいるし、その中には神奈川中学校の卒業生もいるという、まさに継

続は力なりである。

(3) キャリア教育元年前に始まった中学2年生対象の職業体験学習

キャリア教育元年に近い2002年、校外型の職業体験学習を開始するため、学校と「青年ボランティアの会」は協働して、地域の商店などにあたり、生徒の就労体験先を探し、50以上の事業所で実体験としての就労体験が始まった。

毎年の体験学習の開始までには、職業の学習、体験先の希望調整、振り分けが決定したら、生徒に練習をさせた上で電話による事前訪問のアポイント、生徒による事前訪問、神奈川中学校所属の全教諭（例年25人程度）が分担して体験事業所へ事前訪問し体験内容と体験生徒の確認などを行う。体験学習当日の計3日間、中学2年生は学校ではなく職場での体験を継続す

る。事業所によっては、3日間は受け入れられない2日間のみ受け入れのような事業所も複数あるので、生徒によっては、2日間はある事業所、3日目は別の事業所という生徒もいるため、教師の事前準備は相当な業務量となる。体験の3日間、校長も幾つかの事業所周りをする、教諭達も事業所周りをして、事業主や従業員への挨拶、生徒への声かけをする。体験終了後は、体験内容を事業所ごとに活動内容や感想を新聞にして振り返りの学習をする。さらに、体験のお礼状作成を指導し、お礼状とともに生徒が作成した新聞を事業所に送り、事後学習としている。

事業所は例年50から60ほどを確保し続けている。事業所の総数、及び職業の構成は次の表から理解できる⁽²⁵⁾。

表 (2008年までは、日本標準産業分類に基づいていなかったため「その他」があるが、2009年からは同分類に従った。)

【2002年開始の校外型の職業体験学習の事業所数の変遷】

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
事業所総数	59	47	62	47	69	61	62	58	72	56	63	45	52	56	63
製造業	6	4	3	1	3	5	3	3	3	2	1	1	2	3	3
小売店／コンビニ等小売業	21	14	22	18	26	27	26	20	27	19	27	20	15	16	21
飲食サービス	5	3	5	4	7	1	2	3	4	4	2	1	4	3	4
理美容等生活関連サービス	6	5	3	3	3	4	5	9	13	7	6	5	6	7	6
図書館／幼稚園等教育	4	4	4	4	4	4	8	8	8	7	9	7	7	10	9
保育園／作業所等医療福祉	6	10	12	6	12	8	4	11	12	11	11	7	9	10	12
公共サービス／公務	4	5	6	7	7	6	9	4	5	6	5	3	6	5	5
その他	7	2	7	4	7	6	5	-	-	-	-	-	-	-	-

実施年によっては、近隣に体験の事業所数が確保できず、電車バスを利用する体験場所への拡大をして数の補完をしている。巻末の資料2からわかることは、数多くの事業所から協力を得て職業体験を実施していることに加え、学区内や徒歩圏の事業所が圧倒的に多いということである。(学区内及び徒歩圏にある事業所には表中に●を入れて示した。) これは、この事業が地域社会の手で始められたという発生史にもよるが、学校が街中にあり、大口通り商店街に加え、保育園や幼稚園、製造関係の小事業所などが多く存在するという事情にも起因している。地域社会に職業体験の事業所が多数あるということは、学校教育を地域社会で支える実態があるということである。この事業を始めた頃

の関係者の願いである、「子どもたちが地域のまなざしの中で生きている」を感じ取ってほしいとの願いが、地域に引き継がれているようである。地域に開かれた学校づくりなどのフレーズはよく聞くが、キャリア教育の場面を活用して、地域社会が学校教育にコミットしている好例である。教室で行われる教科の学習活動は専門性が高く地域社会がコミットしにくい教育活動であるが、キャリア教育という、子どもを大人の社会につなげていく教育は学校教育の究極の目標であるとともに、学校だけで実施するよりも、学校以外の大人が参加した方がはるかに現実的な内容となる。このような教育活動は副産物として、地域社会の大人が、中学生の顔と名前がわかるわけであるから、青少年の健

全育成に結びつき、安心安全な学区づくりに貢献している。

おわりに

学校教育の目指すものは、社会的自立であり、社会的自立のためには、その社会で必要とされる知識や技能の習得とともに、様々な他者の存在を受け入れ、所属する社会集団のルールや限界を受容し、明日の社会をよりよくする意思を持つ、いわゆる社会性の獲得が必要である。子どもたちは、教科学習を通して知性を向上させ、特別活動を通して人間性を磨く。その中で、キャリア教育の中心である職業体験学習は、学校ばかりか、地域社会が、教育の主体として、明日の社会人を育てるためのアイデアを考え、指導を行う。神奈川中学校の実践例の素晴らしいところは、地域社会と学校が30年前に協働して始めたことが未だに、地域にも学校にも引きつがれていることである。

公教育としての学校教育が目指すものはどうあるべきか、個性や能力の伸長か、社会性の獲得か。どちらか一つということは言えないにしても、少子化が進み親も子も、自分の将来をどう豊かにするかに目が向かう。塾や習い事を通して、進学塾などで評価の高い高校を目指し、個性や能力の伸長に関心を持ち、可能な限り親も子も時間と資金を投じて努力する。しかし、個性や能力ばかりを伸長させ、社会性が十分に育てられなかった子どもは、他者と働くのに本人も苦勞するし、能力を活用させてもらう関係も築けない。

社会性の獲得こそ、自立の鍵なのではないかと思う。社会に受け入れてもらい、社会の力となり、社会をより良い方向へ変えていく。そんな力を育てることが大切だ。前出の茂木茂さんは、「子供たちに大人の生きる姿を見せる事は大切であり、大人の役目かもしれませんが、職業体験学習を大人との触れ合いの場として大切に頂ければと思います。」と述べている。ま

た、当時自治会から青年ボランティアの会に参加した堀江芳雄さんは「子ども達に短時間で仕事の厳しさ、楽しさを理解して頂くことは大変に難しく講師の方々にも打ち合わせや準備にご苦勞されたことと思います。(中略) 仲間に時間と労力を惜しむことなく地域に貢献することを提唱しているところです。(中略) こうした学習に対する協力も新しい時代に於ける私達先輩の当然の責務と考える次第です。次代をになう子供達の将来への手助けをすることも大切な役割でしょう。」と語っている。どちらも、地域社会の住民として主体的に、子どもを大人にしていこうとする担い手としての考え方が現れている。生きる力や、社会に開かれた教育課程を実現するには、教室での教科学習に加えて、子どもたちの学びを地域とともに組織し、小さな実現を重ねていくことが有効である。地域の関係者を含めて、様々な人たちが、教科以外の側面から子どもの自立を支える豊かな取り組みが必要なのである。

今回この小文では、特別活動の捉え方、キャリア教育の目指すものを踏まえて、横浜市立神奈川中学校での職業体験という個別のケースについて検討した。教育課程の域外に、学校の教育方針とは別の次元で継続している子どもたちの世界となっている特別活動についても、キャリア教育の視点で整理すれば、カリキュラムマネジメントを通して、特別活動の改善が可能なのではないだろうか。教科学習に加えて、学校として特別活動を通してどのような自立の道筋を想定するか、教職員が共有できるようになることが望ましい。今回は、少々、神奈川中学校の職業体験という個別のケースにこだわりすぎたかもしれないが、事実をきちんと記録することも意味があると思い、このような文の構成にした。今後、特別活動と子どもの自立については、改めて検討したい。

【注】

- (1) ドミニク・S・ライチェン, ローラ・H・サルガニク 編著, 立田慶裕 監訳『キー・コンピテンシー』明石書店(2006年)に詳しい。OECDは1997年から開始した12カ国60人以上の専門家による検討の結果を, 国際化が進む社会で有能に生きるために必要な能力をキー・コンピテンシーとして整理し, 2003年に公表した。
- (2) アンジェラ・ダックワース『GRIT-やり抜く力』ダイヤモンド社(2016年)。
- (3) 長田徹, 清川卓二, 翁長有希『新時代のキャリア教育』東京書籍(2017年)p.6。
- (4) 磯島秀樹「特別活動のあり方についての一考察」『プール学院大学研究紀要』第55号(2014年)p.157。
- (5) 磯島, 前掲論文p.159。
- (6) 水原克敏『学習指導要領は国民形成の設計書』東北大学出版会(2010年)pp.109-111。
- (7) 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター『学級・学校文化を創る特別活動』(2016年)。
- (8) 磯島秀樹「2020年度以降の特別活動のあり方についての一考察」『プール学院大学研究紀要』第57号(2016年)pp.116-117。
- (9) 北岡宏章「特別活動と民主的リーダーシップの育成について」『四天王寺大学紀要』第46号(2008年)p.189。
- (10) 北岡, 前掲論文p.170。
- (11) 下村英雄『キャリア教育の心理学』東海教育研究所(2009年)p.17。
- (12) 吉田辰雄, 篠翰『進路指導・キャリア教育の理論と実践』日本文化科学社(2007年)p.9。
- (13) 吉田, 篠, 前掲書p.17。
- (14) 文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』(2011年)p.16。
- (15) 文部科学省, 前掲書p.115。
- (16) 2004年段階で示されたキャリア教育で獲得するべきとされた力は, 人間関係形成能力の領域では, 自他の理解能力とコミュニケーション能力, 情報活用能力の領域では, 情報収集・探索能力と職業理解能力, 将来設計能力の領域では役割把握・認識能力と計画実行能力, 意志決定能力の領域では, 選択能力と課題解決能力とされていた。
- (17) 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター『変わるキャリア教育』ミネルヴァ書房(2016年)巻末資料。
- (18) 下村, 前掲書p.4。
- (19) 東京都教職員研修センター『平成16年度教育研究院研究報告書 特別活動』p.17
- (20) 門脇厚司『子どもの社会力』岩波書店(1999年)p.56。
- (21) 下村, 前掲書p.79。
- (22) 横浜市立神奈川中学校『学校・家庭・地域連携事業報告書』(2011年)。学校家庭地域連携事業は, 地区懇談会や総会などを通して, 中学校区の生徒の健全育成を支援する組織であり, 横浜市内のすべての中学校区で, 中学校, 学区内の小学校等, 自治会等で形成している。神奈川中学校区では, それらの事業に加えて, ふれあいコンサート, 職業体験事業を実施している。神奈川中学校区の報告書は, それらの事業全般を内容としているが, 職業体験の記録が主な内容となっている。特に, この2011年発行の冊子には, これまでの神奈川中学校職業体験学習の歴史をまとめた部分があり, 今回参考にした。
- (23) 2017年12月10日 元神奈川中学校PTA会長で青年ボランティアの会を組織した山根誠さんからの聞き取りによる。
- (24) 神奈川中学校, 前掲書より重引用。
- (25) 事業所の総数及び職業の構成の変遷の数的データは, 神奈川中学校前掲所及びその後の『学校・家庭・地域連携事業報告書』2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016年版の記事より, 日本標準産業分類に合わせて, 事業所を分類して作成した。

資料1 校内型の職業体験学習での職業の変遷 (横浜市立神奈川中学校『学校・家庭・地域連携事業報告書』(2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016年版をもとに作成した。))

	対象学年	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
		1学年全員	全学年	不明	不明	1学年	1学年					1・2学年	1・2学年	1・2学年		
産業分類	講座数	10	16	21	21	20	22	23	22	20	21	22	21	20	19	17
建設	電気設備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
建設	板金塗装	○	○	○						○	○					
建設	建築・工務店	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
建設	建築設計				○	○	○		○	○		○	○	○	○	○
建設	ブロック建築					○	○	○	○		○					
建設	内装業												○			
建設	製盤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
建設	旋盤体験(神奈川工業高校)													○	○	
製造	印刷製本	○	○	○	○											
製造	建具製造			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
製造	和裁		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
製造	豆腐製造		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
製造	醤油製造		○	○	○											
電気、ガス、水道	水道局															
情報、通信	コンピューター(情報処理)		○	○												
情報、通信	レコード会社		○													
情報、通信	新聞記者			○	○			○	○	○						
情報、通信	雑誌編集															
運輸、郵便	鉄道職員					○		○								
運輸、郵便	船員						○									
卸売、小売	鮮魚販売	○	○													
卸売、小売	花販売		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	和菓子製造販売						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	スーパーマーケット				○	○	○									
卸売、小売	うどんをつくらう															
卸売、小売	鉛筆販売															
卸売、小売	お茶小売															
金融、保険	保険業															
専門技術サービス	デザイナー	○			○											
専門技術サービス	フラワーデザイナー							○	○	○	○	○	○	○	○	○
専門技術サービス	カラーコーディネーター											○	○	○	○	○
専門技術サービス	作曲家		○		○	○										
専門技術サービス	漫画家・アニメーター			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専門技術サービス	弁護士						○									
専門技術サービス	写真家															
宿泊、飲食	寿司			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	写真販売			○												
生活関連サービス、娯楽	理容師		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	美容師				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	トリマー				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	スポーツインストラクター										○	○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	ネイリスト															
生活関連サービス、娯楽	大学スポーツコーチ															
生活関連サービス、娯楽	旅行業															
教育、学習支援	幼稚園教諭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育、学習支援	盲学校教諭						○	○	○	○	○	○	○			
教育、学習支援	図書館業務															
医療、福祉	看護師	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
医療、福祉	接骨院		○	○												
医療、福祉	歯科医師		○	○												
医療、福祉	医師				○		○	○								
医療、福祉	障害者ボランティア				○	○										
医療、福祉	地域ケアプラザ															
サービス	自動車修理					○	○									
サービス	自動車整備															
公務	消防士	○									○	○	○	○	○	○
公務	警察官		○	○		○	○	○	○							
公務	選挙管理委員会															
公務	救急救命士															
公務	区役所															

資料2 校外型の職業体験学習の事業所の変遷 (横浜市立神奈川中学校『学校・家庭・地域連携事業報告書』2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016年版をもとに作成した。) 尚, 表中の●は本文にも示したが, 神奈川中学校学区内か徒歩圏の事業所である。

分類	店舗名称	近隣	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
製造	パン焼きがま	櫛沢電機製作所	●				○	○	○	○
製造	印刷	協進印刷	●	○	○	○	○	○	○	○
製造	畳	福田畳店	●	○	○	○				
製造	お菓子製造	森永工場	●	○	○					
製造	食品	岩井のごま油株式会社	●						○	○
情報通信	新聞社	朝日新聞社横浜総局				○	○			
情報通信	地域テレビ	YOUテレビ	●							○
運輸郵便	駅	京急 神奈川新町駅	●					○	○	
運輸郵便	駅	東急東横線 菊名駅						○	○	○
運輸郵便	駅	地下鉄 新横浜駅						○		○
運輸郵便	郵便局	トレッサ横浜郵便局				○				
卸売、小売	大規模小売店	スポーツオーソリティみなとみらい店				○				
卸売、小売	大規模小売店	島忠ホームセンター横浜店	●		○	○	○			
卸売、小売	大規模小売店	三和トレッサ横浜店				○				
卸売、小売	大規模小売店	成城石井新横浜プリンスベベ				○	○			
卸売、小売	大規模小売店	新横浜プリンスベベ		○	○	○				
卸売、小売	大規模小売店	ホームセンター島忠	●	○	○					
卸売、小売	大規模小売店	(株)横濱屋大口店	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	大規模小売店	横濱屋松見町店	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	大規模小売店	イオン東神奈川店	●					○	○	○
卸売、小売	コンビニ	セブンイレブン大口横浜駅前店	●		○	○	○	○	○	○
卸売、小売	コンビニ	セブンイレブン大口仲町	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	コンビニ	セブンイレブン白幡南店	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	コンビニ	セブンイレブン横浜妙蓮寺店	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	コンビニ	セブンイレブン横浜妙蓮寺駅前店	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	コンビニ	セブンイレブン六角橋店	●	○	○	○	○			○
卸売、小売	コンビニ	ローソン西大口店	●			○	○			
卸売、小売	書籍	オルト横浜(ブックピア)		○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	書籍	天一書房大倉山店			○	○	○			
卸売、小売	書籍	天一書房綱島店			○	○	○	○		○
卸売、小売	書籍	有隣堂 横浜西口店		○						
卸売、小売	書籍	くまざわ書店新横浜店				○				
卸売、小売	書籍	ブックポート203鶴見店			○	○	○	○		○
卸売、小売	パン	サンエトワール白楽	●	○	○	○	○	○		
卸売、小売	パン	ペーカリー日本堂	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	パン	ベル・エポック	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	パン	シェ・フレール横浜	●						○	○
卸売、小売	パン	パンプー	●		○					
卸売、小売	アイスクリーム	マーベラスクリーム	●		○					
卸売、小売	雑貨	WEショップかながわ大口店	●	○	○	○	○	○		○
卸売、小売	雑貨	リビングショップ しらい	●	○	○	○	○	○	○	○
卸売、小売	雑貨	おしやれ工房	●			○				
卸売、小売	雑貨	斉藤商店	●	○	○	○				
卸売、小売	雑貨	(有)楯田商会	●	○						
卸売、小売	100円ショップ	セリア	●			○				
卸売、小売	花	フラワージュッポ みゆき	●	○	○	○			○	○
卸売、小売	楽器	横浜セントラル楽器	●		○		○	○		○
卸売、小売	薬	マツモトキヨシトレッサ横浜店					○	○		
卸売、小売	建材	LIXIL								○
卸売、小売	スポーツ用品	グリーンスポーツ	●					○	○	○
卸売、小売	新聞販売	ASA大口中央 鶴山新聞店	●	○	○	○	○	○		○
卸売、小売	電気製品	十字屋日立株式会社	●			○				
卸売、小売	自動車販売	トヨタカローラ神奈川	●			○				
卸売、小売	ガソリンスタンド	東邦石油合資会社	●		○	○	○			
卸売、小売	ガソリンスタンド	喜久興産	●		○					
宿泊、飲食サービス	レストラン	ウルフギヤング			○					
宿泊、飲食サービス	レストラン	ザ・ガーデン	●			○				
宿泊、飲食サービス	日本食	魚又	●	○	○	○				
宿泊、飲食サービス	日本食	呉竹寿司	●	○	○	○	○	○		○
宿泊、飲食サービス	日本食	浜源	●	○	○	○				
宿泊、飲食サービス	日本食	吉野家日吉台駅店	●					○	○	○
宿泊、飲食サービス	日本食	吉野家新横浜北口店	●					○	○	○
宿泊、飲食サービス	日本食	梅林	●						○	○

分類		店舗名称	近隣	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
生活関連サービス、娯楽	美容	美容室TBK大口店	●	○	○	○	○		○	○	○
生活関連サービス、娯楽	美容	美容室ハーフポイント	●	○	○	○					
生活関連サービス、娯楽	美容	ヘアサロンやまだいら	●			○	○	○	○	○	
生活関連サービス、娯楽	美容	ジンジャーズジャーナル								○	○
生活関連サービス、娯楽	美容	ヘアサロングロウシン	●		○						
生活関連サービス、娯楽	スポーツ	新横浜スケートセンター			○	○	○	○			
生活関連サービス、娯楽	スポーツ	Hamabowl(ハマボール)		○	○						
生活関連サービス、娯楽	スポーツ	メガロス神奈川	●	○	○		○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	スポーツ	横浜テニスカレッジ	●			○	○	○	○	○	○
生活関連サービス、娯楽	スポーツ	ラウンドワン横浜綱島店	●	○	○		○	○			
生活関連サービス、娯楽	スポーツ	ラウンドワン横浜西口店	●	○	○						
生活関連サービス、娯楽	旅行	近畿日本ツーリスト		○	○						
生活関連サービス、娯楽	旅行	日本旅行神奈川教育旅行支店							○	○	○
生活関連サービス、娯楽	音楽教室	ヤマハユニスタイル			○	○					
生活関連サービス、娯楽	音楽教室	ヤマハミュージック東京 横浜店							○	○	○
生活関連サービス、娯楽	クリーニング	大口第4高松クリーニング	●	○	○	○					
生活関連サービス、娯楽	ペット	ペットパラダイス	●		○						
生活関連サービス、娯楽	ペット	ペットエコ	●		○						
生活関連サービス、娯楽	写真現像	スカイフォーラム	●	○							
教育、学習支援	学校	カコトリミングスクール		○	○	○	○		○	○	○
教育、学習支援	学校	学校法人 武相学園	●	○	○	○	○		○	○	○
教育、学習支援	学校	横浜デザイン学院						○	○		○
教育、学習支援	学校	大口台小学校	●							○	○
教育、学習支援	学校	白幡小学校	●							○	○
教育、学習支援	幼稚園	銀嶺幼稚園	●	○	○	○	○	○		○	○
教育、学習支援	幼稚園	京浜横浜幼稚園	●	○	○	○	○	○		○	○
教育、学習支援	幼稚園	ニューライフ幼稚園	●						○	○	○
教育、学習支援	幼稚園	仲手原幼稚園	●	○	○	○	○	○	○	○	○
教育、学習支援	図書館	神奈川図書館	●	○	○	○	○	○	○	○	○
教育、学習支援	図書館	港北図書館			○	○	○	○	○	○	○
教育、学習支援	美術館	横浜美術館		○							
教育、学習支援	動物園	ズーラシア		○	○		○	○			
教育、学習支援	動物園	野毛山動物園					○	○			
医療、福祉	学童	キッズクラブ「ばれっと」	●	○	○	○	○	○			
医療、福祉	学童	第2子安学童クラブ とんぼ	●	○	○	○	○	○			○
医療、福祉	学童	西寺尾神ノ木学童クラブ とんぼ	●	○	○	○	○	○	○	○	
医療、福祉	保育	京浜保育園バステル	●	○							
医療、福祉	保育	港北保育園	●	○	○	○	○	○	○	○	○
医療、福祉	保育	白百合乳児保育園	●	○	○	○	○	○	○	○	○
医療、福祉	保育	第二白百合乳児保育園	●	○	○	○	○	○	○	○	○
医療、福祉	保育	松見保育園	●	○	○	○	○	○	○	○	○
医療、福祉	保育	六角橋保育所	●	○	○	○					
医療、福祉	保育	聖徳保育園	●						○	○	○
医療、福祉	保育	みつばち保育園	●							○	○
医療、福祉	老人福祉	うらしま荘(老人福祉センター)	●			○	○				
医療、福祉	老人福祉	神ノ木ケアプラザ	●		○		○	○	○	○	○
医療、福祉	作業所	おおぐち工房	●	○	○		○		○	○	○
医療、福祉	作業所	ナザレ工房	●	○	○		○		○	○	○
医療、福祉	作業所	NPO法人もくもく(横浜環境投産所)	●	○	○	○					
医療、福祉	助産院	さくらパース	●								○
医療、福祉	医院	石川こどもクリニック	●				○				
医療、福祉	医院	岡田眼科	●								
サービス	地区センター	神ノ木地区センター	●	○		○	○	○	○	○	○
サービス	地区センター	幸ヶ谷公園コミュニティハウス	●	○	○	○					
サービス	地区センター	白幡地区センター	●		○	○	○	○	○	○	○
サービス	自動車整備	日政自動車整備工場	●		○	○	○	○	○		
サービス	清掃	株式会社横浜ボイス	●				○				
サービス	リサイクル	エコライフ神奈川	●		○						
公務		神奈川県警	●	○					○	○	○
公務		松見消防署	●	○	○	○	○	○	○	○	○
公務		横浜税関					○		○	○	○